

連載寄稿

「子どもたちを守れ」まずは知ることから

川崎市議会議員 石田やすひろ

児童虐待が増えている。川崎市の児童虐待通告件数は、98年の131件に対し08年では724件と、実に5・5倍まで増加している。

08年には13名にも増加している。満床の状態が続くこともあり現在は、他の都市に7名の乳幼児が越境措置となっている。定員は、職員1人あたり子供1・7人までと国の基準がある。

9月の朝刊には「乳児院虐待増え満杯」と問題を提起していた。それではその影響による川崎市内の乳児院数は、98年の2名に対して

こうした課題の解決の一助となるのが、「里親制度」である。市内の里親登録数は、09年末で90名となっている。既に里親と一緒に暮らしている委託児童数は、78名に及ぶ。子供たちの成長期ということを考え



川崎市立大蔵中学校卒業、明治大学大学院(公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て1999年28歳初当選。現在3期目。子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容について積極的に市政報告を実施。

その他 ブログ等は 市議会議員 石田やすひろ



今月の1枚

乳児院しゃんぐりらべピーホームを視察しました